



# 天平文化に思いを馳せて

## —国指定史跡 結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡—

【くにしていせき ゆうきはいじあかつけたりゆうきはちまんかわらがまあと】

結城廃寺跡は、奈良時代のはじめ（西暦700年代前半）に上山川に建てられ、室町時代の中頃までの約700年間続いた古代寺院の遺跡です。結城廃寺の屋根瓦を生産した結城八幡瓦窯跡（上山川地内）とともに、平成14年に国指定史跡に指定された、結城が誇る文化財です。発掘された遺物（瓦や仏像）は、奈良・平城京を中心とした天平文化の特徴を持ち、仏教文化の東国への伝播を考えるうえで極めて重要な遺跡です。

昭和から平成初期にかけ数次にわたり発掘調査が行われ、以後、廃寺跡の保護のために文化財指定や公有地化を進めてきました。市では令和3年に、史跡を確実に保存し有効的に活用するための指針として「史跡結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡 保存活用計画」を策定しました。現在は、保存活用計画に基づき、具体的な保存整備に向け「整備基本計画」を策定しているところです。

同時に未調査部分の発掘調査（～令和8年予定）と整理作業（～令和10年予定）を実施しています。これにより、結城廃寺の全貌が明らかになることが期待されます。

### 保存活用計画 (R3～R18)

結城廃寺の保存、活用、整備、管理・運営体制の基本方針を定めています。

- 史跡を適切に保存し未来へ継承
- 教育、観光、地域活性化の資源として活用
- 出土遺物展示のためのガイダンス施設や案内板の整備、史跡公園として整備

### 整備基本計画

保存活用計画に基づき、整備の基本方針となる計画を策定します。

保存活用計画で定められた基本方針を基に、史跡のもつ歴史的価値を高めるための、整備の基本方針を定めます。

### 実施計画

整備基本計画を基に、具体的な整備を実施するための計画を策定します。

### 保存整備

史跡公園としての整備を実施します。

結城廃寺跡の整備の流れ

### 発掘調査と整理作業

結城廃寺跡は昭和63～平成7年度にかけて、結城八幡瓦窯跡は昭和28年度・平成12～13年度にかけて、遺跡の内容や範囲を確認する発掘調査が行われています。しかし、この調査だけでは廃寺跡の全貌は明らかになっておらず、いまだ謎の残る遺跡です。

そこで、今年度から、これまで明らかになっていない場所を中心に発掘調査を実施し、全貌の把握に努めます。

また、発掘調査だけではなく、整理作業も重要な調査となります。発掘調査で出土した遺構（昔の人の生活の痕跡）や遺物（昔の人が製作した道具や使用した道具）を整理し、その実態を把握することが必要不可欠です。

その後、発掘調査の成果を報告書として刊行し、公開・活用することが、遺跡を保護することとなります。

### 結城廃寺跡の今後

廃寺跡と瓦窯跡は、結城市のみならず茨城県を代表する遺跡であり、地域の宝ともいえる遺跡です。この貴重な財産を未来に残していくため、保存活用計画に基づき、市民の皆さんと一緒に守っていきたくと考えています。

第1号瓦窯跡

結城八幡瓦窯跡



結城廃寺跡から北東約500mの場所にあります。発掘調査で4基の窯が見つかりました。これらの窯はすべて、結城廃寺創建期に瓦を生産した窯です。



金堂跡



塔跡



回廊跡



### 現在の結城廃寺跡と想像図

大切な文化財を未来に残すため、発掘調査で発掘された遺構は記録を取り、壊れないように土を被せて保存しています。南側の門（中門）を入り、西側に金堂（本堂）、東側に塔、正面に講堂が置かれ、その回りを回廊が取り囲んでいます。北側には、僧坊（宿舎）が置かれました。

※想像図を写真に合成したため、建物の縮尺や位置、画角等には誤差があります。

問 市生涯学習課 TEL 32-1931

### 結城廃寺跡から出土した遺物



軒先瓦

屋根の先端に使った瓦。蓮の花がモチーフです。



榑先瓦

榑(たるき)の先端に取り付けられた瓦。



文字瓦

結城廃寺の名前「法成寺(ほうじょうじ)」と書かれた瓦。



塔心礎舍利孔石蓋

5弁の蓮の花模様が描かれた石蓋で、日本で初めて出土。



塑像

土で造られた仏像で、結城廃寺の本尊と考えられています。



埴仏

型に粘土を入れて造った小型の仏像です。